

平成29年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりが「確かな学力」を身に付けるため、組織的な授業改善を推進するとともに、個に応じた学習の機会を提供する。</p> <p>②部活動、生徒会活動を活性化させ、生徒の自主性、主体性を育む。</p>	<p>①「確かな学力」の育成と定着のため、生徒主体の効果的な学びのあり方について組織的な授業改善を進める。</p> <p>②部活動における生徒の定着率を向上させるとともに、生徒の主体的な活動を促す助言指導に取り組む。</p>	<p>①習熟度別授業の展開、定期テストや評価の改善を通じて生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導を行う。</p> <p>①学習活動サポート員の活用を促進する。</p> <p>②生徒に対する指導時間確保のための校内体制を見直しや、顧問担任間の連携体制強化を通じて定着率を向上させる。</p>	<p>①生徒による授業評価等で生徒の理解度、取組が向上したか。</p> <p>①教科会や授業互見を活用し各教科で具体的な取組が行えたか。</p> <p>①学習活動サポート員の活動が定着し具体的な成果を挙げられたか。</p> <p>②部活動への定着率が前年度より向上したか。</p> <p>②校内体制等の見直しが行われ指導時間の確保が行われたか。</p>	<p>①授業時間が50分に変更されたことに伴い学習内容の細かい改善を実施した。</p> <p>①各教科・科目でグループワークや発表を機会に応じて積極的に取入れ、生徒の主体的な学習意欲の喚起に組織的に取組んだ。</p> <p>①生徒による授業評価の結果を活用して授業研修会を行い授業改善に向けた具体的な取組を実施した。</p> <p>②1年生についてはほぼ全員が部活動登録を行った。</p> <p>②生徒会役員が説明会等で主体的に関わる場面が増えた。</p> <p>②授業時間を確保するとともに、学校行事については適切な配置ができた。</p>	<p>①今年度の成果を踏まえ授業実践について情報交換を活発に行い、授業研究をより日常的なものにしていく必要がある。</p> <p>①生徒の実情を踏まえ学習活動サポート員の効果的な活用方法を検討していく必要がある。</p> <p>①グループワークを取入れる機会は確実に増えてきているが、それを生徒相互の深い学びにどうつなげていくかが大きな課題としてある。</p> <p>②1年生の部活動登録については、その後の定着率とあわせてよりよい方策を検討する必要がある。</p> <p>②生徒会活動を活性化するため情報発信の方策を検討する必要がある。</p>	<p>・小テスト等が授業中に繰返し実施されることで定期テスト等の勉強に繋がるなど効果的な学習活動が展開されている。 (保護者)</p> <p>・生徒による授業評価がおしなべて昨年度より向上しているは評価できる。授業を参観しても工夫ある取組が見られた。今後はより多角的な評価の観点を設定できるかが検討課題だと思われる。(学校評議員)</p>	<p>①12月に実施した生徒による授業評価では授業に意欲的に取組んでいるかという自己評価項目で「かなり当てはまる」と回答した生徒が昨年と比較して10ポイント近く上昇している。また、多くの教科で教材の工夫や主体的取組の工夫の項目が上昇している。授業改善の取組が生徒に見える形で浸透してきている。</p> <p>②2・3年に在籍する生徒の半数以上が部活動に参加するなど生徒の自発的な活動は定着している。学校説明会や対外行事でも積極的な関わりを持とうとする生徒が増えている。</p>	<p>①確かな学力育成推進事業が3年目を迎えるのでしっかりと取組の成果をまとめて行く。生徒による授業評価では生徒の理解度に合わせて授業が進められているかという項目が他に比して昨年とほぼ横ばい状態である。生徒自身に見える形で学習成果を実感させる取組を進めて行く。</p> <p>②部活動の中心として活動する2・3年生の定着率を更に上昇させていきたい。そのためにも部活動顧問と担任等がより一層の連携を図り生徒の支援を行っていきたい。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
2 生徒指導・支援	<p>① 基本的な生活習慣の確立を図り、生徒の自己指導能力を育成する。</p> <p>② 生徒一人ひとりの課題に対応した支援体制を構築する。</p>	<p>① 生徒の自立と自律に対する組織的な支援効果を上げる取組を推進する。</p> <p>② SC*1・SSW*2・CO*3を核とした組織的な生徒支援体制を軌道に乗せ充実を図っていく。</p>	<p>① 生徒に係る確かな情報収集、特に機会に応じて実施する生徒対象アンケートの活用を進めていく。</p> <p>② 定期的な情報交換会やケース会議を実施し、情報共有と役割に応じた個別支援を行うとともに、外部関係機関の有効活用を進めていく。</p>	<p>① 生徒対象アンケートの内容精査を行うとともにアンケート等の活用による具体的な支援取組があげられたか。</p> <p>② ケース会議等が定期的実施されたか。また効果的な支援が行われた具体的な事例があったか。</p>	<p>① アンケート等の活用により課題を抱えた生徒に対する迅速で組織的な対応が行えた。</p> <p>① 学年団が協力して事案の発生を未然に防ぐ指導に積極的に取り組んだ。</p> <p>② 教育相談担当者を各学年に配置することによりSCやSSWとの連携を円滑に行うことができた。</p>	<p>① 個人と全体の指導を有機的に組合せ生徒の心情に訴えていく工夫ある取組を進める必要がある。</p> <p>① 生徒情報共有化に関わる効果的な方策をさらに検討していく必要がある。</p> <p>② 家庭環境に課題のある生徒に対し関連部署の連携を強化した取組が一層求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をする生徒が多くなり服装等も以前より落ち着き学校の姿勢が感じられる。継続的な取組の成果として評価できる。 ・ 支援手法の体系化=見える化ができると効果が高められると思う。また、頭髪指導等では個々の生徒の様子を把握する有効な手立てを共有してもらいたい。 ・ 保健室の利用者が非常に多いのが心配である。関係校職員が連携して必要に応じた有効なサポートができる。 (学校評議員) ・ SNS等によるトラブル防止のために講演会等の実施が必要と思われる。 (保護者) 	<p>① 1000人以上の生徒が在籍する学校ではあるが、学年団による組織的な生徒指導は問題行動の未然防止を含め十分に定着している。教員の共通理解のもと事案に対する対応方法も整理され統一感のある対応がなされている。</p> <p>② 教育相談コーディネーターも各学年に配置され生徒の支援体制は整備されてきている。また、支援を必要とする生徒への理解を深めるため校内研修等も定期的実施した。</p>	<p>① 生徒指導に係るここ数年間の地道な取組が普高校スタンダードとして対外的にも認知されている。一方で多様化する生徒に対し画一的な指導に陥らないように個と全体のバランスを保った取組が求められる。そのため、若手教員を中心として指導の力量を高める組織的な取組を行う。</p> <p>② 保健室の利用者が多い状況が続いている。生徒支援の最前線であるという認識をしっかりと持ち、情報の共有化とケース会議等での支援方策の検討をしっかりと行っていきたい。</p>

*1 スクールカウンセラー

*2 スクールソーシャルワーカー

*3 教育相談コーディネーター

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の社会的、職業的自立を目指したキャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが自発的な進路選択を行えるよう動機付けを重視するとともに、進路実現に向けた支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した「総合的な学習の時間」の計画を策定し、学年ごとに適切な目標を定め、機会に応じた体験活動や言語活動の充実に向けた取組を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の進路決定率が昨年度(約95%)を上回ることができたか。 体験活動(長期休業中のインターンシップ等も含む)や生徒の言語活動を積極的に取入れた「総合的な学習の時間」が展開できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスや講話を通じて段階に応じた計画的な取組を進めた。特に1, 2学年ではコミュニケーション能力の育成に焦点をあてた取組を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率が昨年度を下回った要因を分析した上で、家庭と連携し早い段階からの将来設計と具体的現実的な進路を考えさせる方策を検討する必要がある。 キャリア教育の目的を明確にして計画的かつ効果的なプログラムの開発を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路未定者に対する卒業後のフォローについて留意してもらいたい。 進路支援する際には生徒の社会的体験の幅を広げるのも重要と思われる。地域との連携により体験の機会を拡げる検討をお願いしたい。 (以上学校評議員) 	<ul style="list-style-type: none"> 進路決定率が昨年よりも低下した。この要因をしっかりと分析する必要がある。特に生徒の現実と進路先とのミスマッチを防ぐ指導をより重視して行うとともに、最後まで諦めさせない粘り強い取組を強化していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学年から3年間を見越したキャリア教育のプランを再検討していく。特に家庭と連携しての将来設計と具体的かつ現実的な方策を考えさせる機会を必要な時期に必要なだけ設定して行く。 長期休業中のインターンシップ等をより多くの生徒に体験させ、社会との繋がりを生徒一人ひとりに自覚させていく助言指導を行う。

視 点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4 地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域、家庭との連携を深め信頼される学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動が理解させる機会を様々な方法を用いて充実させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、学校案内やホームページ等のメディアを通じて本校の教育活動の情報発信を活発にする。 地域から様々なイベント等の情報を積極的に収集して、可能な範囲で教職員、生徒が参加していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会等での来場者数を昨年並みに確保できたか。また来場者の評価はどうだったか。 学校ホームページを定期的に更新できたか。 地域イベントへの参加等、新たな地域との交流活動が実施されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページによる情報発信を、特に部活動情報を中心に昨年度より活発に行った。 学校説明会参加者は実施方法を見直し1回あたりの参加者が10%程度増加した。 地域防災スクールや文化祭における交通安全啓発活動を地域行政機関の協力を得て実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動により多くの生徒の参加を促す方策をさらに検討する必要がある。 ホームページによる日常的な教育活動の情報発信をより進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> どのような地域連携を進めているのかが保護者に見えてこない。生徒の積極的な参加を促す上でも情報発信等で何らかの工夫があってよいと感じる。(保護者) 前年度に比して活発になっている点は評価できる。地域連携の具体的事例を挙げて情報発信すれば活動内容について理解が進み生徒も取組み易くなると考える。(学校評議員) 	<ul style="list-style-type: none"> 機会に応じた地域連携活動は地道に実施しているが、その情報を発信する手立てや、生徒の積極的な参加を促す手立ては不十分である。キャリア教育等、教育活動全体の視点から地域連携活動を推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元町内会の協力を得て掲示板や広報誌での本校教育活動の情報発信を行う。 関係行政機関との連携をより進め、地域を巻き込んだ防災、交通安全に係る活動を実施する。 中学校側の行事予定等動向をしっかりと把握した上で、より効果的な方法で実施して行く。

視 点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5 学校 管理 学校 運営	<ul style="list-style-type: none"> 事故・不祥事防止に教職員が学校一丸となって取り組むとともに、学校全体の教育力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①入学者選抜業務や成績関連業務において事故を起こさない体制を確立させる ②学校ミッションを理解した上で、創意工夫ある取組を進めて行く主体的な姿勢を醸成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①前年度の反省を踏まえマニュアル等の見直しを行い業務の効率化と事故未然防止の体制を確立する。 ②若手教員に対し、特に組織的な学校運営を意識させた助言指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①入学者選抜業務、成績関連業務において事故ゼロを達成できたか。 ①実情に合った各種業務マニュアルの作成が行えたか。 ②若手教員に対し、特に中堅教員を核とした助言指導が実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種マニュアルの見直しと機会に応じた会議や研修会を実施することで事故の未然防止を図った。 ①災害図上訓練に関する研修を実施し災害時における生徒の安全確保に対する見識を深めた。 ②中堅教員が核となり組織的な業務展開に向けて機会に応じた助言指導が行われていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教職員の慣れによるミスが生じないよう研修内容や手順の再確認について工夫ある取組の開発を怠らない。 ②様々な業務一つひとつがどのように関係し学校運営全体に作用しているのかについて、一人ひとりの教員が自覚を深め、より効率的な運営に向けた検討をさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員、特に若手教員の言動については、生徒もしっかりと見たり聞いたりしているので細心の配慮をもって行ってほしい。(保護者) 学校管理、学校運営の考え方をチャート化＝見える化し、共通認識(認識共有)のツールとすることで効果が高められるのではないか。(学校評議員) 	<ul style="list-style-type: none"> 実態を踏まえ、かつ事故の未然防止を主眼に置いた業務マニュアル等の改善をさらに進めることができた。今後は働き方改革を意識したより効率的な業務遂行が可能となるよう検討を進めて行く。 経験の浅い若年層の教員がさらに増えている現状に鑑み、組織的な校内研修体制を確立していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校管理、学校運営の見える化を進めるため、各種マニュアルの充実を図るとともに、マニュアルを頼り過ぎないためにも教員間での情報交換を密に行う場面を意識的に設定して行く。 若手教員に対する校内研修の効率的、効果的な方法を検討して行く。